



## 第3章 計画の課題

## 第3章 計画の課題

高齢者を取り巻く社会的背景や現状、あるいは日常生活圏域ニーズ調査結果などから、本市における計画の課題を総合的に整理すると、次のとおりです。

### 1. 地域包括支援センターの機能強化

日常生活圏域ニーズ調査結果で、高齢者の状況は日常生活圏域によって差がみられたことから、地域の特性や状況に応じたきめ細かな対応が必要です。

本市では地域包括支援センターを中心に、民生委員などの地域住民をはじめとして介護支援専門員（以下「ケアマネジャー」と表記）や介護サービス事業者などとの連携を図りながら、小地域ケア会議、圏域地域包括ケア会議、地域包括ケア会議を継続的に開催しています。

また、地域包括支援センターは、介護予防や介護の相談をはじめ、地域との連携によるひとり暮らしなど支援を必要とする高齢者の把握、虐待されている高齢者への対応、各種サービスの調整、ケアマネジャーの支援といった地域包括ケアを進める中核として機能しており、今後も引き続きその取り組みと機能強化、体制の構築が必要です。

### 2. 介護予防と健康づくり

本市では、前期計画において、健やかで生きがいのある高齢期を送ることができるよう、保健・医療・福祉の連携による地域包括ケアの推進をはじめ、運動器の機能向上・栄養改善・口腔機能の向上等に主眼を置いた介護予防事業を推進してきました。

高齢期を健康でいきいきと過ごせるように、身近な地域で主体的に介護予防や健康づくりへの取り組みができるよう、引き続き支援が必要です。

### 3. 地域活動への参加促進や生きがいづくり

本市では、前期計画において、高齢者が地域の中でいつまでも元気に暮らせる社会づくりを目指し、生涯学習やスポーツ大会などの文化・スポーツ行事やシルバー人材センター、ボランティア活動など社会参加や就業への取り組みを支援するための諸施策を推進してきました。

日常生活圏域ニーズ調査結果でもみられたように、高齢者の生きがいづくりや、社会参加への支援などは引き続き必要です。

## 4. 生活への支援

加齢による身体機能の低下や、要介護度が重度化しても、できる限り住み慣れた自宅や地域で暮らし続けることが求められています。その一方で、在宅介護の長期化や、日常生活圏域ニーズ調査結果でもみられた、いわゆる「老老介護」の増加など、介護を必要とする高齢者本人や家族介護者を支えるため、介護、医療とともに、さまざまな生活支援サービスの一体的な提供が必要です。

本市では、介護予防や健康な高齢者の生活支援、認知症の予防を行いながら健康な高齢者を増やしていくことを目的とし、高齢者が安心して生活できる地域づくりのため、様々な高齢者福祉事業を展開しています。

今後も高齢者が住み慣れた地域で、いつまでもいきいきとした生活を送ることができるために、給食サービスやホームヘルパー派遣等の生活の支援や高齢者福祉サービス等を適切に提供していくことが必要です。

## 5. 認知症対策

認知症の予防と早期発見は極めて重要であり、今後の介護予防施策として重要な位置にあると考えられます。また、認知症の人を支える体制づくりの構築も重要な課題です。

本市ではこれまでに、認知症への理解を深め、認知症高齢者の見守りや支援ができるように研修会等を開催してきました。今後、高齢者人口の増加や長寿化に伴い、認知症高齢者の増加も見込まれます。認知症の予防から早期発見・意識啓発、地域や関係機関と一体となった見守り・支援など、総合的な対策を引き続き進めていくことが必要です。

## 6. 福祉の視点に立ったまちづくり

段差のある歩道の解消や、利用しやすい公共施設など、高齢者に配慮した総合的なバリアフリー化の推進や、ユニバーサルデザインの継続的な推進が必要です。このことは高齢者のみならず、障がい者や子どもにとっても幅広く有益です。日常生活圏域ニーズ調査結果にもみられたように、高齢者の外出する機会を増やすことによって、運動の継続、健康の維持や生きがいの発見などにつなげていく施策の充実が必要です。

特に、ひとり暮らしや高齢者のみの世帯、障がいのある高齢者など、支援を必要とする高齢者では、災害時の避難や安否確認、避難所での生活に対する不安を抱く人も多いと考えられます。地域での避難や安否確認体制、災害時要援護者支援など、災害時の支援体制の充実強化が必要です。

さらに、犯罪に巻き込まれないよう地域での見守り活動の強化など、安全・安心なまちづくりが必要です。

